

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100763		
法人名	株式会社 春風会		
事業所名	春風会 きし		
所在地	和歌山市栄谷460番1		
自己評価作成日	平成30年12月27日	評価結果市町村受理日	平成31年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&jiyosyoCd=3090100763-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 和歌山県社会福祉士会		
所在地	和歌山県和歌山市栄谷460番1		
訪問調査日	平成31年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の南側には広い庭があり、季節の草花や旬の野菜が栽培されており、散歩や日光浴が自由に行えるように整備してある。広い庭では天候の良い日に屋外でのカフェタイムを楽しみ、家族会でバーベキューを行う等の行事も行っている。専属の調理員の配置をしており、家庭的なメニューの他、季節に応じた行事メニューや、ご利用者様の状態に応じた食事形態(ミキサーやムース)等柔軟な提供を行っている。味付けや盛り付けはご家族やご見学の外部の方からも好評価を頂いている。四季折々の行事には併設の認知症デイサービスと合同で実施する事も多く日頃から交流を深めており、施設全体での見守り体制が出来ている。地域の方にも何時でも来所して頂けるよう、清潔で明るい。又心地よく温かい空間作りを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅街の中にあり、静かで落ち着いた地域環境である。敷地内には庭を配し、植物を植えるだけでなく、イス等の設置もあり、居室やリビングの窓からも庭が見え、庭を利用するだけでない、心が休まる空間となっている。事業所内も明るく、使いやすく、過ごしやすい設えにしており、入居者と職員が親しい関係性を築ける空間となっている。法人全体の理念を基礎として、憲章等を掲げ、いつも皆が、それを確認し、進んでいけるようにしている。管理者が先頭に立ち、職員自身もしっかりとした意識を持ち、事業所全体や入居者一人ひとりを大切に支援していこうと志や取り組みが感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月2回実施しているカンファレンスで社内理念の「春風会憲章」を全員で唱和している。又理念に根差した支援が出来るよう年1回は全体集会を行い共有している。各ユニットの入り口にも理念を掲げ周知している。	会社全体での集会を通して、基本を押さえ、その上での定期的・不定期的な会議や研修等で管理者だけでなく職員全員が理念の共有を行い、まとまりとして、実践を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会には参加できていないが、施設で行う行事のご案内は定期的に広報し、参加して頂いている。地域の清掃作業等には積極的に参加し交流を図っている。	地域との付き合いでは、事業所として出来ることを常に考え、清掃作業等には、職員が積極的に参加する等の取り組みを行い、交流が出来るようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの連携で、認知症サポーター養成研修を年1回開催。事業所には認知症デイや居宅介護支援事業所も併設しており、地域の相談窓口として取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時には民生委員様・自治会長様・地域包括支援センター様の参加を頂き、自施設の取組やサービス利用状況を報告。ご提案や近況の情報共有を図りサービス向上に取り組んでいる。	ただ開催するだけでなく、取り組みや状況報告に加えて、事例検討に参加頂いたり、時にはデザートバイキングを催し、入居者の方々と共に楽しんで貰う等することで、様々な意見等を出して貰いやすい工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず参加して頂いている。又、介護保険制度上の必要な申請手続きや苦情・事故等の報告は速やかに報告し関係性構築に努めている。	工夫し、出席しやすい運営推進会議とすることで、必ず参加となっているため、状況報告だけにとどまらず、相談等が行えたりする等、良好な協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内で身体拘束適正化に即した指針を作成し、定例カンファレンスで読み合わせや身体拘束に関する勉強会を行っている。自由な空間で過ごして頂く為、日中は玄関のカギを施錠していない。	法人としても委員会を立ち上げ、それを基にケア実践を進めている。事業所としても1回/2ヶ月指針勉強会を実施したり、毎月実施している研修会に組み込んだり等きめ細かく取り組む姿勢が見られる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、虐待防止について学びの機会を設けている。日々の支援の中においても、心身の情報を共有し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記にあげた虐待、身体拘束と同様、権利擁護に関する勉強会を設け、職員の意識付が出来るよう努めている。 毎年の外部研修会には積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご相談やご見学時にも、出来る限り解かりやすい説明と、ご理解をいただけるよう、丁寧な対応と説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロア入り口に、ご提案やご要望の意見箱を設置。運営推進会議でご提案やご要望をお伝えし、内容はカンファレンスで共有している。	各フロア入口に意見箱の設置を行い、又、家族との電話や面会時のやり取りにおいても、「声を出しやすい」雰囲気作りに気を配っている。行事等の開催時にも家族等に来て貰えるようにすることで、話しをするきっかけを多く持てるように工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を行い職員の意見や、提案を聞いている。管理者は毎月行われている本部会議等で職員の意見や提案を法人代表者等へ報告し、事業運営に反映させている。	定期的な面談だけでなく、「ちょっと話したい」時にもすぐに管理者が対応出来るようにしており、意見を出しやすい環境を作っている。職員用の忘年会や運動会の開催もあり、様々に職員と交流できる機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が窓口になり、必要時には代表者を交えた面談を実施。意欲向上や職場環境の改善につなげて行けるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年全職員対象の研修会を実施。年間計画に基づいた研修計画をたてた個別の研修も行っている。(会議技術や事例発表会等)又、外部の研修会にも自由に参加できるように、回覧や掲示をする等、学びやすい環境作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に外部の講師を招いた研修会を実施している。包括支援センターや関係機関との交流をかねた勉強会を開催等々の取り組みも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り御本人様の思いにより添えるよう、ストレスを感じないよう、ゆっくりとした姿勢の傾聴に努めている。また、関係性構築のためご自宅訪問やキーパーソンの方からの情報収集にも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお困りごとや不安なお気持ちにつかずけるよう、面接時間や回数に配慮をしている。ご家族様の希望時間を伺い、ゆっくりとリラックスした状況でお話できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	双方の情報共有をしっかりと行い、優先順位や必要性と一緒に検討している。自サービスで対応できなかった場合には、他サービスの説明や必要性を出来る限り判りやすい言語で伝え、適切なサービスへ繋げるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが平等な立場であり、生活(掃除や洗濯、食事、入浴買い物等)を共に行い、必要な存在である事を日々のコミュニケーションを通して感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報やお手紙等でご入居者様のご様子をお伝えし出来る限り近い距離感を維持していただけるようサポートしている。支援内容や方法のご提案は適時連絡しながら関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的なご家族との外出や外泊の支援は出来ている。馴染みの美容院やスーパーへの買い物へ出かけたり、地域の夏祭りへも毎年参加しており、ご家族はいつでも自由に面会ができる。	近隣のスーパーへ買い物に行ったり、今まで通っていた美容院に行ったり等、その人のこれまでの生活の継続が出来るように取り組んでいる。家族への状況報告を密にすることで、家族との関係性を絶たずに、両者の過ごす時間を大切にすることも関係継続支援となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各ユニット間や併設のデイサービスとも交流があり、ご入居者同士も自由に関わりが持てるよう取り組んでいる。また、孤立しないよう職員が関係性に配慮しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時、終了後にも十分な説明を行い、節目節目にお手紙や広報誌等お便りをおわたししている。現状、退去されたご家族様からは近況のご報告を教えて頂いたり、お知り合いのご相談を頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いに出来る限り寄り添い、意向の把握ができるよう、職員間で情報共有やカンファレンスを適時行いながら検討している。	入居者一人ひとりとじっくり向き合い接することで、思いや意向の把握に努めている。時には、家族からも情報を頂きながら、事業所側の一人よがりにならない取り組みにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や職員が日々関りの中から得た情報を基に生活習慣や馴染みの暮らし方を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス開始時の24時間シートやアセスメントシートを基に日々の支援経過、介護記録等も作成。職員間で情報共有を図りながら、お一人お一人の日常が無理なくサポートできるよう現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・ご家族様の意向をよく伺い・カンファレンスやミーティング時に職員間で情報共有を行い、関係機関の意見や提案も盛り込みながら介護計画を作成している。	意向を確認するのはもちろんのこと、その方の状況や今後についても職員間でより良く情報共有を行い、様々な意見を取り入れ計画を作っている。会議等も定期的に行うだけでなく、必要に合わせて不定期に実施することもあり、実状に合わせたものになるように進めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子は支援経過や日課表に落とし込み、申し送りや業務日誌等で職員間での提案や気づきの情報共有は行っている。その上で、支援内容や計画の見直しは行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス利用や福祉タクシーの利用等必要に応じての支援対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自サービスだけの支援にとられず、地域や社会資源等も視野に入れながら、個別支援に取り組んでいる。地域の買い物や行きつけの美容院等へ出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの関係維持を提案し希望時以外のかかりつけ医変更は行っていない。往診時の状況報告は適時ご家族様へ報告し、御本人・ご家族の意向に沿った支援を心がけている。	むやみにかかりつけ医を変更することなく、その人の環境を変化させず安定した医療ケアを、一人ひとりが受けられる体制を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康チェックや体調管理等毎日連絡体制が出来ており、急変時等の主治医との連携が出来るよう日ごろから看護師との情報共有、連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院時には速やかに情報提供を行い、担当者会議やカンファレンスの提案をしながら早期退院にむけて取り組んでいる。地域医療連携室とは日頃より広報活動を通じ連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の再にも週末に関しての説明を行い、ご了承頂いた上での書面を残している。又、必要に応じ個別でも話し合いを行い、事業所で出来ることを十分御説明しながら、チーム共有の基での支援に取り組んでいる。	看取り等への取り組みも十分な説明や話し合いを通して、その人の人生最期をいかに迎えるかを考えた支援をしている。事業所として、チームで支援できるような体制作りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会を通じ、応急手当や対応の実践に努めている。また緊急時マニュアルを作成し電話口に掲示することで、落ち着いた対応が出来るよう取り組んでる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防火災訓練を計画。地域の消防や近隣地区の方との合同で実施できるよう取り組んでいる。消火器の場所掲示や避難経路図の確認、災害備蓄品等の管理を行い地域の避難場所にも使用していただけるよう整備している。	入居者の方々がいらっしゃる事業所としての対策だけでなく、地域の方々にも何かの時はお使いいただける体制を準備している。その一環として、近隣の方には、「何かの時には」と声掛けをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時や排泄の有無の確認時には、他のご入居様に聞こえないような声掛けを心がけている。入浴や更衣の再には出来る限り外部から見えないようにタオルをかけたりに肌の露出を避けている。	排泄や入浴においても羞恥心を必ず考えた介助をすることを目指しており、自分達自身が「違和感を感じる」介助はしない実践に取り組もうとしている。	「違和感を感じる介護はしない」を目指し、実践している中で、熱心さから思いが溢れ過ぎ、支援者本位になりがちなことが見られた。今一度、利用者本位とは何かの基本に返り、入居者の状態や状況、場所等々に配慮し考慮した言葉かけ等の支援が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな飲み物や居場所が選択できるよう、ご本人に確認しながら支援している。ご利用者自身の思いを引き出せるよう、ゆっくり傾聴する姿勢を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や排泄等も含め、ご本人の意向にそった支援が出来るよう、ご本人に説明と同意を得ている。またその日の体調に応じた柔軟な対応を心がけ、出来る限り一人一人のペースを大切にしながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服は選んでいただき、難しい方には簡単な選択が出来るよう支援している。外出の際にお化粧の支援や毎月訪問でのカットも実施しており、身だしなみやおしゃれの支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の持てる力を大切にしながら、盛り付けや洗い物、食器のかたづけ等を職員と一緒にやっている。	一人ひとりの好みだけでなく、食事時間等も考えたその人一人ずつを大切にすることを考えた支援をしている。後片付けも、「いつものお願い」「はい、いつものね」といったやり取りも見られ、日常に溶け込んだ様子となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の必要量は看護師や主治医とも相談し、毎日の食事、水分量は記録している。嚥下状態や身体状況に応じた形態で提供し、必要な栄養や水分提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には嚥下体操を行い、食後は口腔ケアの声かけや支援を行っている。定期的に訪問歯科の往診を受ける体制もあり、口腔内の清潔保持ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記載することで個別の排泄パターンを確認し、自立でトイレに行けない方も定期的にトイレ誘導を行うことでトイレでの排泄が出来るよう支援している。	個人の排泄パターンをつかんでおり、トイレ誘導も無理なくスムーズな声かけで、自然な排泄支援となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し水分補給や乳製品での改善や、運動やマッサージを行い出来る限りスムーズな排便に繋がるよう支援している。又主治医の指示を受け、お薬でコントロール調整しながら負担を軽減出来るよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本の時間はあるが、外出時や面会時、ご本人からの断り時には時間を変更したり、気持ちよく入浴していただけるように支援している。	毎日午前中が入浴となっているが、その人に合わせた入浴としており、必要な場合は介助者を複数人にする等し、安全でかつ快適な入浴になるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や乾燥にも注意している。寝具のチェックシートの活用で定期的に寝具の交換や洗濯を実施し清潔な状態が保てるよう支援している。ご利用者様の状態に応じ日中もゆっくり休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のお薬情報があり、職員が共有出来るよう整備している。不明点等は提携薬局に相談している。症状や変化も情報共有し、服薬時には3回確認と取扱者が確認サインをする仕組みがある事で確実な服薬支援に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事業所ではお一人お一人の意向も伺いながら、適時散歩やドライブへ出かけ、季節に応じお花見や海を見に行く等の支援を行っている。年間行事では夏祭りや運動会、ボランティア様による慰問等		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅へ帰ったり、馴染みの場所へ外出や外食等ご家族や地域の方にも協力していただきながら支援を行っている。	外出等については、その人の思いや好みに合わせて、美容院や買い物等へ行く等、近くの公園や神社へ季節(お花見等)に合わせて行く等、楽しみとなるようなものとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる方には個人で所持している。外出や買い物の際に支払いをお願いしたり、出来る限りご希望や力に応じた支援を心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、ご家族からの電話を取り次いだり、掛けていただく支援も行っている。届いた、お手紙や年賀状は御本人へお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビングや室内壁面には季節に応じた飾りがある。縦長の作りは全体の見通しもよく、高い天井で開放感を感じていたり、大きな窓が明るい日差しを取り込む等居心地のよい空間作りが出来よう工夫している。	明るく、リビングから居室へ繋がる廊下も見通しが良く、圧迫感がなく落ち着いた空間となっている。入居者が作った手編みの壁掛け等を配置しており、清潔で簡素ではあるが温かみのある設えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛け、二人掛け、三人掛け等のソファや、ダイニングの椅子等があり、配置換えでさまざまな空間が出来る。少人数での雑談や、まとまった人数でのレクレーション等が出来よう状況に応じた工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持参される方や、御家族の思いで選ばれた家具を使いやすく配置している。御本人やご家族との写真を飾ったり思い出のお人形等装飾品が飾られていたり、ご本人にとって居心地の良い空間となるよう工夫している。	入居者が元々使っていた持ち物等を持ち込んで居るのはもちろんのこと、自分の趣味や好みで楽しめる居室になっている。安全に配慮した上で、自分自身の居室という空間になっている。	個人の居室という空間になっているが、口腔ケア等は共用の洗面台利用となっていた。個別性や衛生面等を考えた時には、個人の衛生物品の保管や管理を含めて、居室利用を有効に活用することで、より居心地のよい空間としての居室となることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のご入居者様の状況や状態を把握し、出来るだけ自立した生活が安全に過ごせるように支援している。センサーの設置や個々にあったベット・柵を使用する等の対応で安全な動線の確保を図り自立に向けた支援の工夫をしている。		